

『ひのはらいど』の事業継続について (一般社団法人檜原村観光協会 / ひのはらいど実行委員会)

1. 地域資源を活かした「サイクル・ロゲイニング・ヒノハラ」のきっかけ

檜原村では、「坂」のある地形を活かし、平成26年秋に自転車ヒルクライムレースの計画を開催するなど、自転車(サイクリスト)を新たな観光誘客のターゲットとした取り組みを開始した。しかし、サイクリストが訪れているのは、ヒルクライムコースとして設定されている道沿いに限られており、村内周遊や観光消費に結び付いていない現状があった。そこで、村内周遊と観光消費を促すため、サイクリスト向けの地域資源を掘り起こし、村内を周遊するイベントとして「サイクル・ロゲイニング・ヒノハラ(ひのはらいど)」を地域資源発掘型実証プログラム事業として始めた。

2. イベント開催から民間主体で自走するための経緯

事業の成果として「村内の周遊促進」「自転車の新しい取り組みとしてのロゲイニング」「観光資源としての急坂(傾斜の大きい坂道)」「地域の食に関心が高いサイクリストにも向けたテーマ型サイクリング」「受入体制の構築」などの一定の成果が上げられたため、「ひのはらいど」を継続的に開催したいという声が高まってきたことと、村内の協力が整いつつあるため、事業継続が出来る体制を構築することが必要となった。

3. 事業継続をするための取組み

事業開始当初から「自走できる事業継続」を見据えた運営体制の構築を目指していたため、従来の檜原村観光協会を中心とした運営体制から、檜原村在住のサイクリスト、地域おこし協力隊員、地域資源発掘型実証プログラム事業に関わっていた事業者を中心とした「実行委員会」へと再構築し、檜原村観光協会はサポート役として運営に参加することとなった。また、事業継続に不可欠な要因として、「イベントが注目されること」「参加者が純粋に楽しんでくれてSNS等で発信してくれること」など大会参加者のメッセージなどによる実行委員会メンバー個々のモチベーションが上がっていたことも欠かせない。

4. 今後、目指すもの

「ひのはらいど」というイベントを「ブランド」として育てていき、檜原村全体が自転車(サイクリスト)の聖地としていくことを目標とするため、檜原村観光協会の「ひのはらいどレンタサイクル」事業との連携を行いながら、檜原村全体のサポート体制を整えていくこととしている。また、檜原村の観光入込の玄関口である、あきる野市のJR武蔵五日市駅前にて、地域の情報発信とアクティビティの拠点となる「東京裏山ベース」をオープンすることなど、実行委員会のメンバーが自転車を通じた事業展開を行っていることも特筆に値する。

<おわりに>

補助金が切れてしまうとイベントがなくなるという事例等がある中で、「ひのはらいど」の取り組みは、観光協会が全てを担うのではなく、その地域のメンバーが中心となった実行委員会へと役割分担を明確にしながら運営を行うことで事業継続を目指し、地域全体でのサポート体制を整えていくこととしており、イベント等の継続を行うための好事例として考えられます。今後の事業展開と「ひのはらいど」が自転車の聖地としての檜原村のブランド化に寄与することを期待しております。

◆関連リンク：ひのはらいど <http://hinoharide.tokyo/>
東京裏山ベース <http://www.ura-yama.com/>

